

江島 幹雄 【指揮】



東京藝術大学及び同大学院修了。ヴィオラを内田博、浅妻文樹、井上武雄、ウィリアム・プリムローズの各氏に師事。室内楽をルイ・グレーラー氏に師事。また、指揮法を山田和男氏に師事する。東京都交響楽団ヴィオラ奏者として活躍の後、作陽音楽大学（現くらしき作陽大学）に赴任。この間コンチェルトのソリストや数多くの室内楽の演奏会に出演する。

1982年より18年にわたる「アルシェ弦楽四重奏団」の活動をはじめ、2001年3月の国立ブルガリア室内オーケストラと共演したChr. バッハのヴィオラコンチェルトは、その卓越した技巧と豊かな音楽性により高い評価を受ける。一方、指揮者として「作陽音楽大学弦楽合奏団」、「マルチェロ室内合奏団」の常任指揮者を歴任。1984年に「倉敷ジュニア・フィルハーモニーオーケストラ」の設立に参加、以来常任指揮者及び音楽監督を務め青少年の音楽育成に情熱を傾けている。

1985年・86年に中国政府の招きにより、北京中央音楽院でのオーケストラ指導のため訪中。1985年・1999年には倉敷ジュニア・フィルハーモニーオーケストラを率い北京・上海・蘇州にて演奏会を開催。2002年には常任指揮者を務める「倉敷アカデミーアンサンブル」を率いニュージーランド公演を成功させる。近年では、岡山県出身の若手演奏家を支援する「アンサンブルくらしき」の活動をバックアップしている。2018年3月に倉敷市立短期大学学長職を退任後、くらしき作陽大学特任教授に着任。現在、倉敷ジュニア・フィルハーモニーオーケストラ音楽監督、倉敷アカデミーアンサンブル常任指揮者、アンサンブル早島音楽監督、くらしき作陽大学特任教授。

江島直之 【チェロ】

幼少より倉敷ジュニア・フィルハーモニーオーケストラでチェロを始める。桐朋学園大学卒業、同大学研究科修了。2013年桐朋オーケストラ・アカデミー在籍。この間にアルゲリッチ音楽祭、サイトウキネンフェスティバル in 松本、ヴィオラスペース、ラ・フォル・ジュルネ・オ・ジャポン、PMFオーケストラ(2013・2014年)に選抜され出演。第8回横浜国際音楽コンクール弦楽部門第2位。第15回大阪国際音楽コンクール入賞。倉敷ジュニア・フィルハーモニーオーケストラ、倉敷アカデミーアンサンブル、アンサンブル早島と協奏曲を共演。2015年に渡独しベルリンにて研鑽を積む。帰国後は後進の指導にも力を注ぎ、倉敷ジュニア・フィルハーモニーオーケストラ、アンサンブル早島の講師を務める。また近年では質の高い演奏を目指し、地域の音楽文化に貢献することを目的とし、「アンサンブルくらしき」を立ち上げ、積極的に演奏会を企画開催する。また、一般社団法人Reiseが主宰するライゼ・カンマー・オーケストラのミュージックアドバイザーを務めるなど、幅広く活動している。

チェロを森純子、倉田澄子、菊地知也、岩崎洸、Dmitry Feygin、Markus Nyikos、Conradin Brotbek、Laszlo Fenyóの各氏に、室内楽を江島幹雄、北本秀樹、徳永二男、小森谷泉、三上桂子の各氏に師事する。現在、ライゼ・カンマー・オーケストラミュージックアドバイザー、アンサンブル早島ミュージックアドバイザー、倉敷ジュニア・フィルハーモニーオーケストラ講師、くらしき作陽大学音楽学部特別非常勤講師。



アンサンブル早島
ホームページはこちら

アンサンブル早島

「音楽を聴くのも好きだけど、自分でも演奏してみたい。一人ではなくて、仲間と合奏できたら・・・」そんな望みがかねえられる場としてできたのが「アンサンブル早島」です。

「アンサンブル早島」は岡山県の早島町中央公民館で開かれた「弦楽アンサンブル教室」を出発点とし、定期演奏会は2000年に第1回を開催。現在は、早島町の「ゆるびの舎」を活動拠点に、約25名の弦楽愛好者がプロとして活躍する演奏家にご指導いただきながら、練習を楽しんでいます。



お願い

*新型コロナウイルス感染症の影響により、予告なく公演中止になる可能性がございます。

最新の状況はアンサンブル早島のホームページでご確認ください。

*新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご来場の際には以下の点にご協力ください。

①咳エチケット、マスク着用、手洗い・手指の消毒の徹底

②人と人との距離(ソーシャルディスタンス)の確保

③疑似症状がある場合は来場をお控えください(咳、発熱、呼吸困難など)

④過去2週間以内に感染が引き続き拡大している国・地域への訪問歴がある場合は来場をお控えください

*チケット半券に氏名・連絡先を記入の上、ご来場ください。(コロナ感染防止以外には使用しません)